

2011年10月5日

株式会社損害保険ジャパン  
日本興亜損害保険株式会社

## 損保ジャパン、日本興亜損保は 道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）の パイロット事業に参画します

株式会社損害保険ジャパン（以下「損保ジャパン」、社長 櫻田 謙悟）および日本興亜損害保険株式会社（以下「日本興亜損保」、社長 二宮 雅也）は、NKSJリスクマネジメント株式会社（社長 石川 秀洋）の支援を受け、「道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）」の正式発行に際し、他の企業にさきがけて本規格のパイロット事業への参画を決定しましたのでお知らせします。

### ◆道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）とは

道路交通事故により全世界で毎年130万人近くの人々が死亡しており、「交通事故による死亡や重傷者の撲滅」は全世界の願いとなっています。こうしたなか、昨年3月の国連総会において採択された『道路交通安全10カ年活動（2011-2020）』においては、全世界における交通事故死亡者・重傷者の90%を占める発展途上国での交通事故防止に向けて、日本を含めた先進国は交通事故防止のノウハウや成果を積極的に共有すべきであるとされています。

このような状況のなか、世界33カ国が参加する国際標準化機構（以下「ISO」）の国際会議において、交通安全に対する取り組みへの国際規格として「道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）」が、2012年11月頃の正式発行に向けて開発・検討されています。

- ISO39001規格は、「全世界から交通事故による死亡者と重大な負傷者を根絶する」との究極の制定目的があり、ISOは当該目的達成のため2020年までに全世界で10万件の認証（ISO14001と同水準の事業者数）を目指しています。
- より多くの企業が認証取得可能な規格とするため、ISOは2012年11月頃の正式発行に先立ち、道路交通安全の取り組みをドラフト段階の規格に基づいて試行する「パイロット事業」に参画する企業を世界中から募り、これら参画企業での試行を通じて汎用性を高める施策を打ち出しました。
- 損保ジャパンおよび日本興亜損保では、ISO39001制定の趣旨に賛同し、これまでに取り組んできた自動車事故防止に関するノウハウが世界中の多くの企業にモデルケースとして活用されることを目指し、本パイロット事業に参画することとしました。
- なお、パイロット事業の協力結果につきましては、2012年2月に南アフリカで開催されるISOの国際会議の場で報告される予定です。

### 【ISO39001のパイロット事業の概要】

自社の社有車事故防止活動を本規格のドラフトに基づいて運用し、規格の改良点の有無などを確認することにより、規格の汎用性や事故防止の実効性を高めるもの。2011年10月より運用開始。

損保ジャパンおよび日本興亜損保では、この取り組みを通じて、日本国内のみならず地球規模での道路交通安全に広く貢献していくとともに、これまで実施してきた自動車事故防止の取り組みにISO39001の考え方を取り込むことにより、お客様企業に対する自動車事故防止支援活動の実効性をさらに高めていきます。

以上